



# JEG ニュースレター 142号

www.jegschweiz.com

2014年3月28日発行

## 小さな証

自分がスイスで救われたのは、この日のためであった。帰国直後、千年に一度の大震災に遭遇した菊地神学生の証しです。



## 宣教の地へ

日本と日本人を愛して17年の間、福音の種を蒔き続けた北の国・札幌へ、東北の被災地を経由して、ゲルスタ前牧師ご夫妻が里帰りされます。



## 主の御手の中で

阪神大震災で最愛の弟さんを亡くされた福音歌手・森祐理さんは東北の被災地で今も人々に慰めと希望を与えておられます。



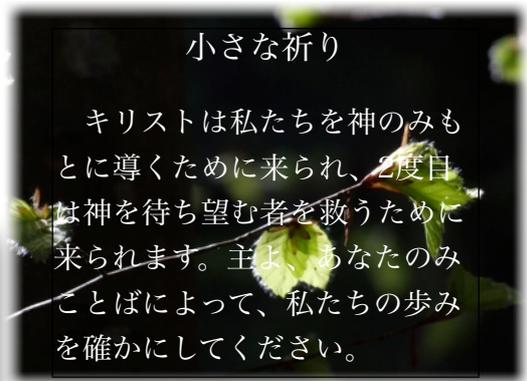
## 家の教会

オランダ南部教会の誕生から一年、消えかかっていた灯火が再び燃え、子ども達が駆け巡り、蘇った姿がここにあります。



## 小さな祈り

キリストは私たちが神のみもとに導くために来られ、二度目は神を待ち望む者を救うために来られます。主よ、あなたのみことばによって、私たちの歩みを確かにしてください。



「キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」  
第1コリント15、14&20

## 東日本大震災から3年



真理似寒梅  
敢侵風雪開

真理は寒梅に似たり。  
敢えて風雪を侵して開く。

新島襄

Photo: Max Oehninger (日光で撮影)

## ちいさな証

## クリスチャンに出来ること

菊地祥彦

利府キリスト教会／オアシスライフ・ケア



もうすぐ震災から3年が経ちます。これまでのみなさんのお祈りとご支援に心から感謝します。現在、被災地には震災直後に比べると見違えるような光景が広がっています。瓦礫は取りのけられ、瓦礫置き場に山のように積み上がっていた震災ごみも大分減りました。被災地を訪れる人からすれば、目前に空き地が広がる光景や、ぼつりぼつりと点在する新しい建物を見て、徐々に被災地も復興していると感じるでしょう。しかし、目に見える被災地は復興が進んでいるように思えても、目に見えない被災地の様々な部分には、まだまだ課題が山積んでいます。特に、人々の心には癒えていない傷、長期化する避難生活による疲れ、心の拠り所であったコミュニティを失った苦しみが残っています。

自分たちの住まいを失った方々の避難生活も3年が経ちます。応急的に”仮設”で作られた住宅の壁も薄く、面積も小さい住宅で暮らすことは日本人なら誰でもストレスが溜まるでしょう。震災によって心に重荷を抱えている人たちが住んでいるとしたら、それはどれほどのものなのでしょうか。しかも、資材の高騰や人手不足によって災害公営住宅の建築は大幅に遅れているため、避難生活をしている多くの人たちがまだまだ多くの日々を避難先で過ごすなければいけません。先日、僕は宮城県・東松島市にある仮設住宅を訪問しました。ある年配の男性とお話ししていた際、災害公営住宅についての話になりました。その方は「俺が生きてるうちには仮設から出られねえじゃないかなあ」と寂しそうに話していました。

避難生活での体調悪化や過労などで亡くなる「震災関連死」の死者数は長引く避難生活によって、岩手、宮城、福島など10都県で3,000人以上に上っています。建物の倒壊などを直接の原因とする「直接死」の死者数(約1,650人)を倍近く上回る数です。特に福島県では、現在も13万人以上が避難しており、震災関連死者数は、全体の半数以上を占めています。



私たちがこのような現状を聞く時、心を痛め、何か被災地のためにしたいと思うでしょう。クリスチャンである私たちは、痛みを抱える人たちに寄り添い慰めを与えてくださる神様に祈ることが出来ます。震災後、被災地には100万人以上のボランティアが訪れました。しかし、今ではめっきりその数が減ってしまいました。これまで被災家屋の瓦礫撤去や清

掃、側溝の泥だし、田畑や土手の瓦礫撤去、救援物資の仕分け作業、避難所の環境改善活動、写真整理、草刈りなどの力仕事を中心としたボランティア活動が実施されてきましたが、現在はそのようなボランティアニーズはほぼなくなっているからです。

しかし、祈りのニーズはいつまでもなくならないでしょう。被災地を助けるボランティアの数は激減し、被災地を助けようと思っても助けられない人が沢山いますが、私たちクリスチャンだけはその場において、祈りの支援を届けられます。震災関連死が増えてきていることからわかるとおり、被災した方々は心のニーズを抱えているでしょう。そのニーズを満たす最大の支援は、イエス・キリストの御名による祈りではないでしょうか。僕は教会が一つもなく、クリスチャンも一人もいない宮城県石巻市のある地域に関わっています。先日、その地域に支援に行った際「私たちのために祈ってください」と言われ驚きました。支援活動で訪問する度にお祈りさせてもらい、現地の方々はその度に「祈ってもらえると心に元気が与えられるんです。ありがとうございました。」と仰っていました。私たちだけでなく被災者の方々も薄々、祈りの力を感じているのだとわかり嬉しくなりました。



僕は、僕の教会で立ち上げた内職支援プロジェクトでつくったSHIZU革というキーホルダーを車の鍵に付けています。毎朝、鍵をもって家を出るとき、被災地を覚えて祈るように心掛けています。このSHIZU革のアイテムを、震災を風化させないため、また、クリスチャンの方々には

キーホルダーを持って祈ってもらうために販売しています。最近では、この働きに共鳴くださったアーティストの氷室京介さんの協力もあり、たくさんの方々にSHIZU革を手にとってもらうことができました。SHIZU革によって、被災地を覚える輪、被災地のために祈る祈りの輪を広げていきたいと願っています。



阪神淡路大震災も復興には10年かかったと言われていました。それ以上の規模の被害があった今回の震災ではどれほどの年月になるでしょうか。被災地のためにこれからも覚えてお祈りください。これ以上、震災関連死が増えるのを防ぎましょう。これ以上、福島原発事故が酷くならないように祈りましょう。今こそ、クリスチャンが支援するときです。



1、スイス日本語福音キリスト教会では、エペソ人への手紙から聖書の教会の形成を学んできましたが、3月9日から、マイヤー・マルチン牧師による期待の新講解説教シリーズ「使徒の働き」が始まりました。ペンテコステによって誕生したエルサレムの原始キリスト教会が、キリストの体として心も財も一つにして実生活をも共にしてきた姿を聖書から学び、現代への適用を探ります。

3月9日の礼拝は東日本大震災記念礼拝として、風化という現実と直面する被災地と、増しつある本格的な苦しみと孤独、喪失の悲しみを覚え、祈りを捧げました。また、被災者に寄り添い、今も支援を続ける利府教会オアシスライフ・ケアに献金を募りました。

2、3月9日の礼拝において役員就任式が執り行なわれました。教会のかしらである主イエスキリストによって任じられた新役員が、聖書に基づく判断をし、重い責任を全う出来ますよう教会員の祈りとご協力をお願いいたします。



3、教会活動の実務を担う世話人会会員も、役員会によって任命されました。本年度の世話人は次の通りです。今村葉子姉（会長、CS/Teens）、フォンブランタ美和子姉（会計）、原しのぶ姉（奏楽）、ヴァイランド千佳姉（奏楽）、クスター節子姉（愛餐会）、ヘス明美姉（受付）、クンツ・ルツ師。多くの時間と自己犠牲と責任の伴う御奉仕を担ってくださる姉妹に、どうかご支援と協力をお願いします。

4、ゲルスタ前スイスJEG牧師ご夫妻は、3月31日から5月21日まで、かつての宣教地である日本を訪問されます。宮城では、菊地神学生と恵美さんに会われ、スイスJEGからのオアシスライフ・ケアへの献金を直接お渡し下さいます。その後、東北の友人と被災地を訪れながら、古巣・札幌に渡られ、残務整理のかたわら、親しくされていた多くの友人に別れを告げられます。

また、滞在期間中、札幌で開催されるフランクリン・グラハム宣教大会にノンクリスチャンの友人たちを招く計画があります。ゲルスタ夫妻の日本滞在が祝福され、旅の安全が守られます様にお祈りを願います。



礼拝後の吉田ファミリーと愛餐会での交わりのスナップ

5、3月14日（金）仏・ストラスブルにおいて「聖書のお話を聴く会」が開かれました。以下は今村葉子姉によるレポートです。

日本生まれ、日本育ちのドイツ人牧師、マルチン・マイヤー先生はご自身が日本とドイツの両文化の中を生きて来られ、そのどちらもとても大切に下さっておられ、牧師という職業の他に異文化交流コンサルタントもされています。

今回のテーマは「個人主義とグループ意識について」ですが、ヨーロッパ（中央）で個人主義が重んじられている背景には今から1200年程前のローマ帝国によるドイツ語領土でのキリスト教の国教化、その後の布教の歴史による影響が強いそうです。とりわけ、個人を大切にするあり方は神様が一人一人の命（存在そのもの、あがなわれるべき命）を大切にしている聖書の教えから来ている事をお話し下さいました。

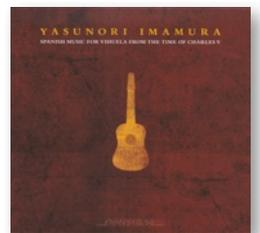
個人主義は エゴイズムに偏るとの指摘が多い中、本当の個人主義の意味を知る事はとっても日本人的な私と致しましては、貴重な学びの時となりました。またいつもは学生さんで賑わう会ですが、今回はちょっと平均年齢が上がりました。

どなたでもお越しになれます！を本当に実践している記念写真撮る事ができました。（笑）

遠い所からお越し下さった方々、ありがとうございます。マスターコース、試験の最中で来れなかった学生さん。また次回お目にかかれます事を楽しみにしています。また忙しい中、興味をもって来てくれて、率直な意見を語ってくれた学生さん。感謝致します。語り合える場を与えて下さっている神様になによりも感謝しています。



6、今村泰典兄の新しいCD「カール5世時代のスペインのビウエラ音楽」が出版されました。マルティン・ルターが活躍する1500年前半の時代のスペイン・ルネッサンス音楽のCDです。スペイン国王カール5世のもとで働いていたデ・ロス・コボスの宮廷ビウエラ奏者であるナルバエスやミラン、ムダラの作品が収録されています。「ビウエラ」とは聞きなれない名前ですが、もともとは弓で弾かれるのではなく、手で弾かれるピオラからビウエラという名前が来ています。スペインのリユートとも呼ばれるこの楽器は、形はギターに似ていますが、リユートの親戚で、音域も演奏法もリユートと全く同じで、音もリユートにとっても良く似ています。CDに興味ある方は直接今村泰典兄に連絡して下さい。 [yimamura@bluewin.ch](mailto:yimamura@bluewin.ch)



7、お祈り頂いていたオスローJCFの金子進兄が40日40夜の闘病を終えて退院されました。6頁に経過報告を転載いたしました。

8、オーニンガー宣教師、クンツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ペラ宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、吉村美穂メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、イザール通信、オリーブ山便り（イスラエルよりの最新情報）が届いています。お読みになりたい方は、松林までご一報下さい。



日出ずる  
国から

## 結婚しました！

宮城県は利府町の  
菊地 祥彦 兄から

みなさん、こんにちは！ニュースレターでの報告が遅れましたが、2月11日に結婚しました。

相手は震災後に出会ったとても素敵な女性で、名前は（旧姓）加藤恵美さんと言います。別々の場所で生まれ育ち、生きてきましたが、震災後に神様の導きの中で不思議な形で出会い結婚に導かれました。

出会ったストーリーを少しだけ紹介させてください。彼女は大学からオーストラリアに行き、卒業後はオーストラリアの地元企業で働いていました。「当分は日本に帰ることはないだろう」と思っていたそうです。



そんな中、2011年3月11日に震災が起きました。テレビで津波の映像を見た彼女は、いても立ってもいられなくなりボランティアとして東北に行くことを決意しました。

職場の上司に懇願し、3週間CRASH Japan（キリスト教系救援団体）でボランティアをしました。そして、その中で日本にとどまるよう神様に背中を押され、会社を辞めてCRASHの仙台ベースの専任スタッフとなったのです。

仙台ベースは、僕の教会（オアシスチャペル）で運営している森郷キャンプ

場（宮城県利府町）に置かれており、彼女は日曜日になると近くにある僕の教会の礼拝に来ていました。

僕たちはそこで出会ったのです。二人の人生を導き、結び合わせてくださった主をほめたたえます。僕の周りには震災をきっかけに出会い、結ばれたカップルに何組か会いましたが、まさか自分もそうなるとは思いませんでした。これからは神様が与えてくださる力によって妻を愛し、聖書が教える夫を目指していきます。



2人で「スイスに行きたいね」とよく話しています。いつかみなさんにお会いできることを期待しつつ、みなさんの上に主の導きと守りがありますようお祈りしています。

## 主の御手の中で

モリユリ・ミュージック・

ミニストリーズの

森 祐理姉から

ハレルヤ！主の御名を賛美いたします。

スイスのニュースレターをとても嬉しく拝読させて頂きました。

「20年の歩みの写真集」も開き、「田辺先生若いな～」と驚き、松林さまのハイジ姿に爆笑し、キリスト者の集いで私も写っていることに喜び、感謝しつつ拝見いたしました。

20年の歴史は、神の恵みの歴史ですね！私も昨年福音歌手20周年を迎えることができ、小さな者を用い続けてくださる主の恵みを改めてかみしめています。



東日本大震災追悼礼拝 (3/11)

写真には、脇山様も写っていましたね。いつも年末に愛に満ちたお手紙をくださる脇山さまご夫妻は、真実

に祈り支えて下さって、いつも感謝しています。

感謝をもって懐かしいスイスのみなさまに近況を書かせて頂きます。

3月11日、仙台で行われた東日本大震災合同追悼礼拝にて献歌させていただきました。とても厳粛で、まだまだ痛みの中にある方々の前での献歌はとても重い役目でしたが、祈りをもって捧げることができました。

その後すぐ、ウィル・グラハム大会である「希望の祭典inFUKUOKA」の為、福岡へまいりました。

ランチョン、バンケット、本大会、キッズ大会、ジーザスストーリーにて総合司会と賛美



ウィル・グラハム先生と共に、東京

の御用にあたりました。福岡の後、そのまま東京大会にて十字架の賛美を捧げました。一つ一つ大変な重責でしたが、すべてお祈りによって支えられ、恵みの内に終えることができ感謝しています。

今週は、レコーディングが続き、山梨での日本基督教団の大会コンサート、そして4月頭よりアメリカ・ロサンジェルズツアーへ参ります。

どうか主の御手の中、喜びつつすべてを行い、主の良き道具となることができますようお祈り支えて頂ければ幸いです。そして小さな者の為に、少しでもお祈りに覚えて頂ければこんな嬉しいことはないです。お時間が許されましたらダイアリーもご覧下さい。

感謝と祈りをこめて 森 祐理  
<http://www.moriyuri.com/yuri/>

追記：最近テレビコマーシャルに出てくるハイジのアニメを見る度に、スイスを思い出しています♪。いつも主が共にいて、溢れる恵みを注いでくださいますよう心よりお祈りしています。





## ヨーロッパの 日本語教会 と集会から

### オランダ南部日本語 キリスト教会 (JCSN)が 満一歳になりました！

#### オランダは南部・ヴェッセムの村から ペイトン朝子姉から

去る3月9日の日曜日、オランダ南部日本語キリスト教会は、設立第一周年記念礼拝を持つ恵みにあずかりました。気温が18度にも上がったオランダ南部の田舎、美しい春の訪れと共に、暖かい太陽の光とイエスさまの愛の光を思い切り受けて、感謝と賛美が溢れる日となりました。

その数日前に、ミラノを出発してオランダに向かっておられたメッセンジャーの内村伸之牧師とまり子さん、愛犬のハンナちゃんを乗せた車が、高速で後ろから走って来た車に激突されるという思いがけないニュースがはいり、非常な驚きと恐れに一時は戸惑いましたが、そこにも主の絶対の守りと勝利があったことを知り、すべてを御手に委ねて、この日に臨みました。



不思議な形で、オランダ南部にすでにいらしていた科学者であり伝道師である増谷啓兄がその日のメッセージを急遽次いで下さいました。嵐の中でも「わたしはあるという者である」という、神ご自身であられる主イエスをまっすぐに見

上げて踏み出していく信仰、たとえ、風を見て沈みかけても引き上げて下さるイエスさまがそこにおられること、そしてこの私達の弱さをも用いて益と下さる主であることを、ご自身の救いの証しと共に大胆に語って下さいました。

女性ばかりの高齢化の中で沈滞していたこのオランダ南部に今、新しい風が吹き始めています。若者が、子供が草原を走っている姿があります。数えてみると、5カ国以上の国籍の人がそこには集っています。イエスさまがその真ん中にいてくださいます。世界中で祈られている、神様に愛されている教会です。心から感謝します！



でも、本当の戦いはこれからであることも知っています。勝利の主である平和の君がこの教会の頭なので、御霊の与えて下さる剣をもって、大胆に前進して行きたいと思います。一言でもいいです。どうぞお祈り下さい！そして低地の方にいらした折は、是非お立ち寄り下さいませ。Face Book やサイトでアップデートや、この教会の風景をご覧いただけます。

<http://www.facebook.com/jcsnkyokai>  
<http://jcsnkyokai.nl/>

ヨーロッパ各地の教会、集会も（いえ、世界中でこれを読まれている主にある兄弟姉妹方も！）私達と繋がってくださる共同体であることを覚えて、このオランダの片隅で主が始められている業をお分かちしました。どうぞこれからもよろしく願いいたします！

みなさまの上に主の豊かな祝福がありますように。



## WebとFacebookの サイトが出来ました！

#### オランダはアムステルダムの 荒川詠子姉から

主の御名を心より賛美いたします。



アムステルダム日本語キリスト教会の荒川詠子です。1月にはセミナーで、皆様と共に学び、そして親しいお交わりが出来たこと、本当にうれしく心から感謝でした！！

そして、皆様には、いつもアムステルダム教会のためのお祈りとまた温かいご支援、励ましをいただき、心より感謝しております。

さて、私達の教会もついにWebとFacebookのサイトが出来ました。Web制作にご協力をくださる方が与えられ、そして試行錯誤でUpしてやっと形になりました。どうか、是非ご覧ください！



Web サイト：<http://www.japanesechurch.nl/>  
Facebookのサイト：<https://www.facebook.com/japanesechurch.nl>

(\*Facebookに登録されている方は、是非このページにLikeくださると大変励まされ感謝です！)

私達はまだ極小さな群れですが、何よりもイエス様に喜ばれる教会になれるように、祈りつつ力を合わせて頑張っています。今後とも何卒どうかよろしく願い申し上げます。皆様への心よりの感謝と主の豊かな祝福をお祈りしております。

熱い祈りに支えられて。

## 270304 オスロからの回覧板

皆さま方のお祈り心から感謝します。

キリストにある敬愛する兄弟姉妹、先生方の熱いお祈りにより、21日に退院し、現在、自宅でリハビリ中です。まだ痛みは体の中を走りますが、モルヒネを中心とした痛み止めやアンチ・ビオチカで何とか、ひとり暮らしが出来る程度まで回復しました。短距離なら車も使用できます。腰の痛みのために重い物をもつての歩行はきついです。スーパーへ買い物にも行けます。感謝です。

最初に痛みを感じたのは2月9日の夜で浴場と洗面所の改修中でした。全身にしびれるような痛みが走り、時間が経つにつれ痛みが激しくなる一方でしたが、一晩眠れば治るだろうと楽観していました。あくる日は立つことも困難な状態で、疲れから来る病気にしては経験したことがないものでした。もう1日待っても痛みが軽くならなければ病院に行こうと考え眠りにつきました。

痛さに寝付けない夜でしたが、翌日の朝5時に目が覚めた時の痛みは尋常ではなく、友人に電話をしてから救急病院に電話し、救急病院から総合病院へ移され2日ほど居ましたが、2晩かかった検査結果で他の専門病院に移されました。

最初の3日間は40度ほどの熱でうわごとばかり言っていたそうです。専門病院に移された日は晴れた暖かい日和でした。私は「カナリヤ諸島行きの切符は買った覚えがないのに何故ここにいるのでしょうか？暑いですね～」と最初の看護師に話しかけていたそうです。この専門病院はキリスト教精神を基本にした「良きサマリタン」と称して設立された大きな病院です。この病院の医師長が私の専門医となって治療が始まりました。原因不明ということで、あらゆるアンチ・ビオチカが投入され、副作用も出て大変な数日でしたが、医師長が最適な薬を見出だし、順調に痛みが和らいでいます。現在は、多少の痛みは持続しながらも退院が許されて我が家に戻っています。1日を4回に分け16錠ほどの薬とモルヒネを胸に貼付して痛みを和らげながらの闘病生活です。日常のことはほとんど出来ますが、友人に助けを乞うこともしばしばです。

ここまで回復したのは皆さま方の熱いお祈りがあったからです。心から感謝しています。オスロの五十嵐姉、ブリーネの森姉、スイスの松林兄、日本では柏の若色兄、大野の土成兄姉、が祈りの輪が広がって下さったことは本当に感謝です。1日も早く元気になって以前のように奉仕に専念したいです。思い出してはお祈りください。

皆さま方のお祈りを心から感謝して。 オスロにて 金子 進

[skaneko535@gmail.com](mailto:skaneko535@gmail.com)